

## 「経常収支比率」

【29】 84.0% ← 【28】 88.8% (4.8ポイント改善)

★分子となる歳出では、障がい福祉サービス事業費などの扶助費が増加したものの、公債費や人件費が大幅に減少し、分母となる歳入では市税や地方消費税交付金などが増加したことから、比率が改善した。

### 【主な要因】

歳入(分母：経常的に収入される一般財源)は13億6,300万円の増加

- 市税の増(7億6,800万円)
- 地方消費税交付金の増(3億1,300万円)
- 株式等譲渡所得割交付金の増(1億6,000万円)
- 自動車取得税交付金の増(1億2,700万円)
- 地方交付税の減(△2億4,000万円)

歳出(分子：経常的な経費に充当される一般財源)は35億5,400万円の減少

- 公債費の減(△21億1,600万円)
- 人件費の減(△16億1,000万円)
  - 退職手当の減など
- 補助費等の減(△8億1,900万円)
  - 下水道事業会計負担金△8億5,900万円減など
- 扶助費の増(6億3,000万円)
  - 障がい福祉サービス事業費3億5,200万円増など

